

## 今日の説教のポイント<マタイによる福音書 19 章 16~30 節>

### ①前後の個所との関係を考える

聖書を読むとき、その個所の前後との関係が大事な場合があります。今日の個所もそうです。直前は、「子供たちを来させなさい」とイエス様が言われた話。直後は、働いた量にかかわらず同じ賃金を払われる主人の話です。この間に今日の、富める青年が「どんな善いことをしたら永遠の命を得られるか」とイエス様に問うた話があることに注目です。この前後の話を考えると、青年の問いがずれていることが分かります。

### ②「できるはず、やらねば」、そういう思いから解放される救い！

イエス様は、相手がした質問がずれていると、すぐその問いには答えられずに問い返されます。しかし、この青年に対しては、次のように、問われたことに沿ってそのまま次々答えられている印象を受けます。

「何をすればいいか？ 掟を守りなさい。 どんな掟か？ 十戒の後半4つと隣人を自分のように愛せよ。 それは守っている、その他には？ 持ち物を売り払い、貧しい人々に施せ」、と。 どうしてこうされたのかは、結末を見るときに分かります。 まじめで、真剣に善いことをして永遠の命を得ようと取り組んでいた青年にイエス様がなされたことは、「善いことをすれば天国に行ける。だから自分はそれに取り組んでやれて来たし、これからだってやれる」、そう思っていた思いを打ち砕かれることだったのです。「人間はできない限界を持つ存在である」ということを、イエス様は、彼には、こういう仕方です示されたのです。

### ③針の穴を通れる人間に「私たちが変えられる」というのではない！

「金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」(24)「それは人間にできることではないが、神は何でもできる」(26)。有名なイエス様の言葉ですが、間違っではありません。神様ができるとおっしゃっているのは、私たちが針の穴を通れる人間に変えて下さるということではありません。通れない私たち人間を、しかし「そのまま神の国に入れる」と神様は言われているのです。子供を招かれ、働いた量の少ない者にも同じ賃金を払って下さる神様なのです。このことに救いがあるのです！ この無償の愛に満ちた神様がおられ、その神様が私たちを生かして下さいることを、イエス様によって示されたのです！